



長門の話題

Topics

第14回長門市ラグビーフェスティバル

ラグビーに親しむ一日

6月3日(日)、「第14回長門市ラグビーフェスティバル」が油谷コミュニティパークで開催され、市内外から24チーム約200人が参加しました。



▲体の接触プレーは避け、腰についたタグを取る



▲ストレッチなど体や緊張をほぐす手法を楽しく学ぶ

ラグビー教室ではスペシャリストとして参加したパナソニックワイルドナイツの宇佐見和彦選手と下釜優次選手らが講師となり、ボール回しや鬼ごっこなどで体の使い方の基礎を学びました。

客船「につぼん丸」が仙崎漁港沖に寄港

歓迎イベントでおもてなし

6月9日(土)、客船「につぼん丸」が仙崎漁港沖に寄港し、乗船客らへの歓迎イベントが行われました。上陸地となったセンザキツチンではみすゞ保育園の園児や和太鼓演奏が



▲みすゞ保育園の園児が手作りの旗を振ってお出迎え

出迎え、長門名物やきとりの振る舞い、俵山温泉の出張足湯など、長門らしいおもてなしを乗船客らは満喫していました。



▲歓迎セレモニーでは、記念絵画と入港記念盾を贈呈

市内の学生と企業をつなぐ合同企業ガイダンス

地元企業の魅力に触れる

5月30日(水)、「市内の企業と学生をつなぐ合同企業ガイダンス」がルネッサなどがとて開かれ、市内の企業など31社がブースを設置し、市内の高校生ら約70人が訪れました。

それぞれのブースを訪れると、映像や資料をもとに各社の特長や業務内容を説明していました。参加した学生は「市外に就職しようと思っていたけど、市内に自分の思い描く企業があることがわかったので、市内で検討したい」と話していました。



▲企業と学生のマッチングを目的にNPO法人つなぐが主催

太陽生命ウイメンズセブンズシリーズ第2戦秋田大会

パブリックビューイングで応援

5月26日(土)、27日(日)に開催された女子7人制ラグビーのトップリーグにあたる「太陽生命ウイメンズセブンズシリーズ」に出場したながとブルーエンジェルスへの応援をしようとして、ショッピングセンターウエーブでパブリックビューイングが開催されまし

た。会場には2日間6試合に延べ300人の市民が応援に参加。揃いのTシャツを着用し、大型スクリーンに映し出される試合を観戦。ながとブルーエンジェルスの選手がゴール前に近づくと声援も熱を帯び、トライの応酬に一喜一憂する姿が見られました。



▲繰り広げられる熱戦に観客も大きな声援を送る

第3回ONSEN・ガストロノミーウォーキング

風景と食、里山の魅力を満喫

6月16日(土)、「第3回ONSEN・ガストロノミーウォーキングin長門・俵山温泉」が開催され、県内外から参加した66人が全長約9kmのコースを歩きました。

ONSEN・ガストロノミーウォーキングとは、豊かな自然や風景を見ながら歩き、温泉地が持つ食と文化の魅力を体験するウォークイベントで、長門市では3回目の



▲里山の自然にふれながら約9kmのコースを歩く

開催となります。参加者は熊野神社横をスタートし、温泉街を通り過ぎた後、各地区で用意された「農家縁側カフェ」や「湧き水カフェ」「ハンターの山」を訪れ、澄んだ湧き水や俵山産の野菜、竹林の風景を堪能しました。



▲竹林でヨガを体験してリフレッシュ

来場者20万人目を迎える

6月1日(金)、道の駅センザキツチンが4月20日のグラウンドオープンから数えて来場者20万人目を迎え、記念のセレモニーが行われました。

20万人目となったのは、大阪市在住の続廣紀さんと妻の純子さんと、九州の実家に寄る途中で山口県の観光名所を巡っており、テレビなどの報道でセンザキツチンを紹介していたので前から来てみたかったとのこと。続さんは「全く予想もしていなかったのが本当にうれしい。記念品に長門市の特産品をもらったので食べるのが楽しみ」と感想を述べていました。



▲記念のくす玉を割って20万人突破を祝う

第25回全国棚田(千枚田)サミットの開催に向けて

長門らしい棚田サミットを

5月21日(月)、全国棚田(千枚田)サミットの開催に向けた長門市実行委員会の設立総会と第1回実行委員会が長門市役所で開催されました。

全国棚田(千枚田)サミットは棚田保全の重要性と耕作継続への意義を広く発信することを目的に、平成7年から全国各地で開催されており、平成31年度には中国地方で初となる第25回大会が長門市で開催されることが決定しています。

総会では開催時期を平成31年10月12日(土)から14日(月)までの3日間とすることなどが提案され、承認されました。



▲今後、運営委員会などで大会に向けた準備が進められる

長門のPeople

集落を維持し、地域の農業を支える

花岡 輝彦 さん (株式会社長門西 / 油谷蔵小田)



昨年7月に設立された集落営農法人連合体「株式会社長門西」に、今年の4月、初の専任従事者として入社した花岡さん。県内のJA出資型の連合体としても初の専任従事者となります。

「小さい頃から農家を継ぐことがぼんやりと頭にありました。集落単位だと農業が成り立ちにくいですが、連合体として会社化された株式会社長門西に可能性を感じ、入社を決めました」と話す花岡さん。現在は、共同育苗や集落営農法人からの受託

作業、労務関係の事務などを担当しています。

「集落営農法人から作業を委託され、地域に向いて作業を行ったら、農家の人にすごく感謝されました。自分のスキルが役立つと感じ、やりがいにつながります」と手応えを感じている一方で、「農業は絶対的に人手が足りない。収益性や効率性を高めることで、これ以上の衰退を食い止め、現状をいかに維持していくかが今後の目標です」と抱負を語ってくれました。

旬な人



▲共同育苗や受託作業などで農家の負担を軽減

幻想的な光に酔いしれる

6月2日(土)に三隅上地区で、6月9日(土)に渋木地区・俵山地区でそれぞれ蛍祭りが開催されました。

三隅上地区では、昔ながらの薬を使った蛍かご作り体験が行われ、子どもたちはおじいちゃんおばあちゃんに編み方を習いながら伝承の蛍かごを編み込んでいました。

渋木地区では10年目を迎えた記念として来場者に蛍光ブレスレットが配られました。また沖縄民謡ライブのほか、けん玉パフォーマンスも開催されました。

俵山地区では、焼き鳥やヨーヨー釣りなどの屋台が出店し、バンドや和太鼓の演奏が行われました。今年は近年にないほど多くの蛍が舞っていたとのことで、来場者は幻想的な光に酔いしれていました。



▲三隅上地区ホテル祭り (6/2)



▲渋木地区蛍のふる里まつり (6/9)



▲手作り蛍祭り in 俵山 (6/9)

みすみハーブを愉しむ日

ハーブの香りに包まれ、楽しい一日を

6月10日(日)、「みすみハーブを愉しむ日」が香月泰美術館周辺で開催されました。ハーブの香りに包まれた会場では、ハーブを使ったお茶や料理、グッズの販売、リース作りなどが行われたほか、ハーブの摘み取りやスケッチ大会も開催され、ハーブをスケッチする子どもたちの姿が見られました。そのほか、乗馬体験やくじら鍋などの地元グルメの露店が並び、多くの来場者がイベントを楽しんでいました。

このイベントには三隅地区の小中学生40人がボランティアとして参加し、各ブースの運営に協力してイベントを盛り上げました。



▲約100種類のハーブを楽しむ



▲ハーブでリースづくりを体験